



早稲田大学総長
小山 宙丸

慶應義塾体育会の創立100周年を祝う

慶應義塾体育会の創立100周年に関係者の皆様とともに心からお慶び申し上げます。本日の記念すべき日を迎えることができましたのも、これまでに数々の実績と輝かしい伝統を築きあげてこられた各運動部のOB諸氏をはじめ、多くの関係者の努力とご支援の賜と存じ、敬意を表する次第です。

慶應義塾は開塾以来134年の歴史を有する日本最古の私立大学であります。明治以降、日本は欧米文明の吸収摂取を推進し、その結果我が国は急速に変貌を遂げ近代国家に様変わりしましたが、慶應義塾はその際に活躍した多くの人材を輩出されてきました。慶應義塾が果たした役割は、ここで改めて申し上げるまでもありませんが、経済界をはじめあらゆる分野に測り知れない貢献を果たしてきたことは周知のことです。そして、そのことはスポーツの分野でも同様であると思います。

日本の近代スポーツの発展を支えてきたのは、ほかならぬ学生スポーツです。慶應義塾ではすでに1889年に端艇部が発足したと伺っていますが、当時塾における学事面の拡大気運とかねてから福澤諭吉先生が唱えられていた体育重視の主張と相まって、1892年に野球、弓術、操練など7つの部からなる体育会が創設されたのでした。ここに、学問によって知識や教養を身につけ、スポーツによって心身を鍛練し、人間形成を行うことにいち早く取り組んだ慶應義塾の先見性を伺い知ることができます。これによって、後に都下の名物にもなった大運動会の開催や活発な課外活動などが可能となり、学生の運動指向が急速に高まったのだと思います。また体育会の新たな試みとして、ラグビーやホッケー、ヨットなどの新しいスポーツの導入も他校に先駆けて行い、従来から行われていたスポーツの発展と新しいスポーツの普及に大いに貢献したのでした。同時に、オリンピック大会にも代表選手を送り込むなど、慶應義塾体育会は学生スポーツの隆盛を演じる立役者となったのです。

早稲田大学では、慶應義塾に遅れること10年、1902年に野球、庭球など、6つの部からなる体育会が発足しました。慶應義塾と同様、学生スポーツの発展に果たした役割は大であると自負していますが、これも慶應義塾という良きライバルがあったからこそ可能だったのではないかと思います。学生スポーツの代名詞とも言える慶早戦が、現在36の部で行われています。あるものは季節の風物詩になり、あるものは大観衆を集めて血湧き肉踊る熱気で繰り広げられる名勝負となり、両校の関係者のみならず多くのスポーツファンを魅了し、スポーツ愛好者の増加に多大な寄与をしてきたと思います。

このように見ますと、日本の学生スポーツの歴史そのものが慶應義塾体育会の活動と発展に大きな影響を受けてきたと言えるでしょう。慶應義塾大学には大変有名で人気の高い部が多数ありますが、このたびの体育会創立100周年を機に更に多くの部が活躍され、慶應義塾体育会が学生スポーツ界をリードされることを、互いに長い年月の間競い合ってきた早稲田大学の衷心からの友情をこめて希望し、お祈りするものであります。